

北海道立北方民族博物館 第25回特別展

トナカイのパーカとアザラシのブーツ ～北方の衣文化をさぐる～

Reindeer Fur Parka and Sealskin Boots: Traditional Clothing of Northern Peoples



毛皮を持たない哺乳類—ヒトは、他の動物の毛皮を身につけて、北の大地でくらしてきた

2010.7.17(土) ⇒ 10.17(日)

◆開館時間 9:00～17:00(10月は9:30～16:30)

◆休館日 10/4(月), 12(火) *7～9月は無休

観覧料	特別展	常設展	セット割引
一般	450(300)円	450(360)円	700(660)円
65歳以上	300円	無料	—
高校生・大学生	150(120)円	150(120)円	240(240)円

※中学生以下はいずれも無料
()内は10名以上の団体料金
常設展とのセット割引があります。

主催 北海道立北方民族博物館

協力 東京家政大学博物館、文化学園服飾博物館

近藤敬治氏、呉人恵氏、高橋佐貴子氏、津田命子氏、スチュアート・ヘンリ氏、大島稔氏、佐々木史郎氏



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

<<指定管理者：財団法人北方文化振興協会>>

〒093-0042 網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)
◆網走バス観光施設めぐり線・北方民族博物館前 (駅から約15分)
TEL0152-45-3888/FAX0152-45-3889 <http://hoppohm.org>



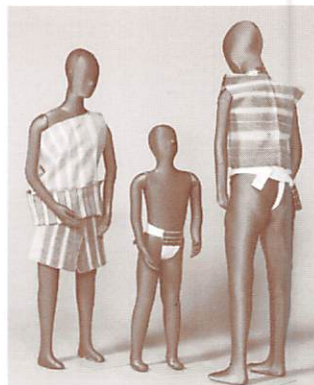
第25回特別展 「トナカイのパーカとアザラシのブーツ ～北方の衣文化をさぐる～」

Reindeer Fur Parka and Sealskin Boots: Traditional Clothing of Northern Peoples

人類が北方の寒冷な環境へと生活の場を広げるためには、さまざまな知恵と技術が必要でした。その最も重要なものの一つが、衣類です。本展では、北方の先住民族が伝えてきた衣類の素材、機能、技術などの特徴について、世界の他地域の衣文化と比較しながら紹介します。

世界の衣服、北方の衣服

世界の各地でくらす人びとは、気候をはじめとする自然環境や文化の違いにより、多様な衣文化を生み出してきました。衣服の形態は、腰布型、巻垂型、貫頭型、前開型、体形型の5つに大きく分類されています。北方民族の衣類の大部分は、寒冷な気候に適応した体形型と前開型に当てはまります。また、衣類の素材は、温暖な地域では主に植物性繊維が用いられていますが、寒冷地では一般に動物の皮が利用されています。展示では、インド、インドネシア、台湾、グアテマラといった地域の異なるタイプの衣服を、環境との関わりから紹介します。



台湾先住民の成人男女と少年の伝統衣装 (ヤミ/東京家政大学博物館所蔵)



トナカイ毛皮製子ども用つなぎ (コリヤーク/ロシア・マガダン州)

暖かく大きな毛皮

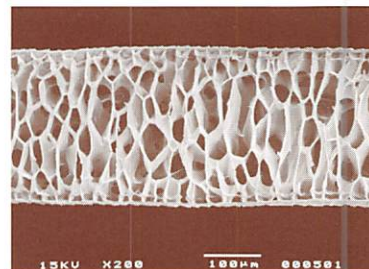
一般に寒冷地の哺乳動物は、暖かな毛皮で覆われていますが、ヒトは特定の部位を除いて体毛が退化しています。北方地域の人びとは、大型でその肉も食べることができるトナカイやアザラシをはじめ、さまざまな種の毛皮をその特性に合わせて使い分けました。さらに、体温で暖められた衣服の中の空気を逃さないように、フードやつなぎなど形も工夫されました。また、皮をしなやかに長持ちさせるための鞣しや、丈夫で美しい縫製の技術も伝えられてきました。毛皮の衣類とそれを作る道具類などを展示します。

毛皮交易と先住民

17・18世紀ころから、ヨーロッパや中国では良質な毛皮に対する需要が高まり、欧米の探検家や毛皮商人はシベリアやアラスカ、カナダなどに進出していきました。先住民たちは毛皮をめぐる世界的な交易ネットワークに巻き込まれ、その文化は大きな変容を余儀なくされました。こうした歴史の一端も紹介します。

毛皮はなぜ暖かい？

ほとんどの哺乳類の毛皮は、長くて太い「保護毛(刺毛)」と短くて繊細な「下毛(綿毛)」からなっています。毛は1つの毛穴から束になって生え、毛と毛の間には空気の層ができて、寒さを防ぐとともに暖かさを保っています。さらに、毛の内部に空洞の気室が発達しているものもあります。毛の密度や構造は、動物の種や生息環境によって異なり、同じ動物でも年齢や部位、季節によって違ってきます。走査電子顕微鏡写真などで、毛の不思議を紹介します。また、実際に毛皮に触れてみることもできます。



気室が発達したトナカイの冬の保護毛の断面写真 (写真提供: 近藤敬治氏)

<期間中の行事>

- 7月24日(土) 10:00-11:30 はくぶつかんクラブ「土器づくり」①形づくり 講師:菅原章子(当館解説員)
- 7月25日(日) 11:00-11:30, 15:00-15:30 特別展解説会 解説:齋藤玲子(当館学芸主幹)
- 8月7日(土) 10:00-12:00 はくぶつかんクラブ「土器づくり」②野焼き 講師:菅原章子(当館解説員)
- 8月8日(日) 10:00-12:00 学芸員講座「シンプル織りもの」 講師:齋藤玲子(当館学芸主幹)
- 8月21日(土) 10:00-15:00 アイヌ文化講習会「樹皮糸でストラップづくり」 講師:遠山サキ氏(アイヌ文化伝承者)
- 9月4日(土) 13:30-15:30 北海道博物館紀行「紋別市立博物館 ～オホーツク式土器づくり～」①形づくり
- 9月18日(土) 10:00-12:00 北海道博物館紀行「紋別市立博物館 ～オホーツク式土器づくり～」②野焼き
上記2つとも講師:小番宗幸氏(紋別市立博物館学芸員)
- 10月2日(土) 14:00-16:30 特別展関連講習会「伝統のアイヌ文様と刺繍入門～カパラミツ技法による巾着づくり」
～3日(日) 10:00-12:00 講師:津田命子氏(北海道立アイヌ総合センター学芸員)
- 10月16日(土) 9:30-16:00 第25回北方民族文化シンポジウム「現代社会と先住民文化—観光、芸術から考える— ②」
～17日(日) 9:30-16:00 会場:オホーツク・文化交流センター(エコーセンター2000)

参加を希望される方は、事前にお申し込みください。保険料や材料費、持ち物が必要な場合もありますので、詳細はお問い合わせください。